

ふなかわら

第 23 号

2011 年 6 月 25 日発行
編集・発行 石井甲一

〒 278-8510
千葉県野田市山崎 2641
東京理科大学薬学部内

印刷・菅原印刷(株)



渡り廊下から撮影 15号館(左) ゲノム創薬センター(中央)

C O N T E N T S

1. 一日も早い東日本大震災からの復興(石井 甲一)...	2	11. 同窓会だより.....	17
2. 同窓会副会長挨拶(武尾 勝司)	3	1 期同期会報告.....	17
3. 学部長挨拶(田沼 靖一)	4	3 期同期会報告.....	17
4. 平成23年度同窓会総会および講演会のご案内	5	11期同期会報告	18
5. 平成23年度「実践社会薬学」の開講およびご案内...	6	15期同期会報告	19
6. 薬学講座のご案内.....	8	7 期同期会報告.....	20
7. トピック.....	10	薬化学研究室同窓会報告.....	21
はじめての薬局実務実習を終えて		久保寺研究室同窓会報告.....	22
(金澤 幸江).....	10	平成22年度地区交流会(長野)報告	22
8. 卒業生報告.....	12	12. 平成22年度同窓会総会について	23
近況報告(山田 高照)	12	13. 氏名・住所・異動等変更届.....	25
近況報告(中富 一郎)	12	13. 会費納入のお願いおよび平成22年度会費納入状況...	27
10. 退任の挨拶(芳賀 信)	15	14. 会費・寄付納入者一覧.....	28
(西谷 潔)	15	15. 終身会員一覧.....	28
11. 新任の挨拶(鍛冶 利幸)	16	16. 訃報.....	31
(根岸 健一)	16	17. 同窓会幹事一覧.....	32
		18. 編集後記.....	32

一日も早い東日本大震災からの復興

東京理科大学薬学部同窓会 会長 石井 甲一



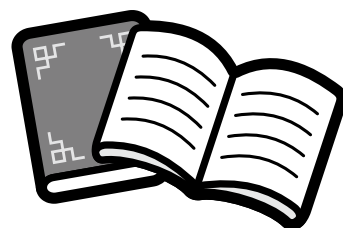
平成23年3月11日午後2時46分、これまで経験したことない震度5強という強く長い揺れに、足のすくむ思いでした。私は、参議院議員会館の最上階である12階の事務所におりました。揺れが収まるのを待ち、一階まで駆けおりましたが、その後の強い余震に驚き、携帯電話のテレビで都内の九段会館の天井が落ちた、お台場のビルで火災が発生したなどの報道に接し、親から聞いていた関東大震災を思い起こしました。しかし、震源地は三陸沖と聞き、ニュースで東北地方太平洋地域を襲った大津波の映像を見るにつけ、自然の力のすごさを実感するとともに、とてつもない被害の甚大さを予想しました。都内は、地震直後から交通がマヒし、私も3時間30分かけて自宅に戻りました。

5月中旬現在、死者は約15,000人、行方不明者は約8,900人と阪神淡路大震災の被害を大幅に上回っており、心よりご冥福を祈りたいと思います。また、多くの被災者の皆さんは、まだまだ不自由な生活を余儀なくされておられます。東日本大震災は、大きな揺れと津波に加えて、原子力発電所の破壊という、わが国史上初めての大惨事をもたらしました。

一方、被災地や避難所における医療の確保のため、医師のみならず多くの薬剤師もボランティア活動に参加しており、日本薬剤師会からの派遣は6月末まで続けられるとのことです。

東日本大震災の発生は、大学の行事にも影響を与え、卒業式は会場が変更され、謝恩会は中止となりました。日本薬剤師会の学術大会も、今年10月に仙台で開催されることになっていましたが、被害の状況を考えると、とても開催できる状況ではなく中止となりました。阪神淡路大震災の際には、開催予定地であった神戸に代わって急遽仙台で開催されたことを考えますと、今回は兵庫県で開催との話もあったと聞いていますが、日程的に間に合わなかったとのことです。そのため、毎年学術大会に合わせて開催されていた、同窓会の地区交流会も中止となりました。

大震災の復旧・復興に向けて、政府は4兆円規模の補正予算を組み、がれきの撤去、仮設住宅の建設などが始まっています。1日も早く復興されますことと、被害にあわれた同窓生がおられないことを心より祈っております。



副会長の挨拶

東京理科大学薬学部同窓会 副会長 武尾 勝司



会長のご挨拶文と内容が重複するかもしれませんが、今年はどうしても避けられない話題は3月11日に発生した東日本大震災とこれに伴う福島第一原発の事故のことと思います。この地震で震源地から遠くにお住まいの方も大きな揺れで大変な思いをなさったと思います。又、震源地に近く津波による甚大な被害が発生した岩手県、宮城県、福島県、茨城県には、多くの卒業生がおられ、かなりの方が大なり小なり被害を蒙ったと思われます。又、関東近県の千葉県や埼玉県で地震による液状化で自宅または店舗に被害を蒙った方もおられると思います。心よりお見舞い申し上げます。

収入の多くを年金に頼っている私は、暇が十分あることより、新聞、ラジオ、テレビで津波の深刻な被害状況に悲しみ、年のせいか何かあると涙がこぼれました。福島原発では終息のための対応を固唾を呑んで見守り、地震発生から1ヶ月ほどは、悲しいというだけではなくボーとしてあまり外出もせず月日が経ってしまったように思えます。1ヶ月を過ぎた頃から、悪い意味で震災の悲しさに慣れてきたのか、少しずつ平常に戻ってきました。

今回の震災では、多くの薬局も壊滅的に破壊され、一部報道で、医薬品供給が国の対応よりいち早く、業界団体等により行われたと報じられており、又日本薬剤師会や各都道府県の薬剤師会を通し、多くの薬剤師がボランティアとして現地で活動しております。これらにも多くの同窓生がかかわり、復興のため日夜がんばっておられることと思います。

従来、災害時のライフラインは、電気、水道、ガスを指しておりますが、今回の震災では、いろいろな方面より、第4のライフラインとして医療が取り上げられており、この医療の一翼を担う薬剤師の重要性はますます高まっております。同窓生のますますの活躍を期待したいと思います。

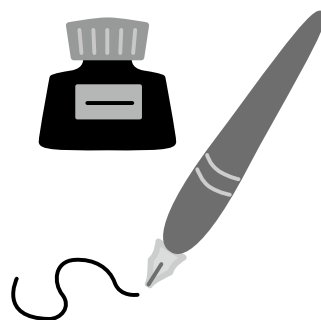
今回の震災は津波による建物等の倒壊で膨大な瓦礫が発生し、この瓦礫の撤去は多くのボランティアの協力や国及び自治体の強力な推進により日一日と進んでおり、今後は復興構想会議の提言に従い再建が図られてゆくと思いますが、単に元に戻すのではなく、従来と異なる価値観に従い、後世に誇れる新たな町造りをしてもらいたいと思います。

一方、福島原発は、単なる電力供給の中断ではなく、放射能汚染の拡大による立ち入り禁止区域の拡大及び放射能汚染による農畜産物、水産物の被害並びに風評被害が深刻な問題となっております。原子炉の冷却は工程表

で9月を目処に進められておりますが、一日も早い終息が望まれます。

今回の震災で、我々は価値観及び生活スタイルを考え直す良い機会を与えられたと思います。過度の競争社会及びこれに伴う大量な製品の供給、消費、廃棄物の発生を考え直し、次世代に引き渡すため地球温暖化の阻止を含めた地球環境の改善を考えなければならぬと思います。

今年の夏は、家庭を含めて消費電力を15%節減すること求められており、これを含め生活にいろいろな無駄があると思いますので、一つ一つ見直した生活をしたいと思っております。



新生薬学部—未来へ

東京理科大学薬学部 田沼 靖一



今からちょうど半世紀前、新宿区船河原に本学薬学部が誕生しました。それ以来、先人の先生方の学問に対する熱い情熱と薬学の「知」を受け継ぎ、さらに新たな「知」が積み上げられてきています。この長い歳月のなかで、野田キャンパスへの移転（2003年）と新薬学教育制度による6年制のスタート（2006年）が、薬学にとっての一大イベントであったことは間違いないことでしょう。

特に後者においては、目的を異にする新しい2学科が設置されました。質の高い薬剤師養成のための6年制の薬学科（定員80名）と先端医療を支える創薬研究者・技術者の育成を目的とする4年制の生命創薬科学科（定員100名）であります。ここでの共通基盤は、ファーマコインフォマティクス（クスリに関する総合情報科学）であり、両学科の教員が一致協力して教育・研究にあたる新しい体制であります。これを大島前学部長のもとで進めて参りました。

現在、学年が進行し、新生薬学部の第一期生が薬学科では最高学年（6年）となり、生命創薬科学科では、大部分の学生が大学院に進学し、修士2年生となっています。来春には、6年制の第一期生は新薬学制度初の薬剤師国家試験を受験することになります。一方、修士課程を修了した同僚の学生の多くは、広い薬学関連分野で社会人として活躍されることが期待されています。このような成果の間われる重要な時期に、昨年の10月から第16代学部長を仰せつかり、身の引き締まる思いとともに重責を感じています。

今後の薬学部としましては、大島前学部長のコンセプトを踏襲するとともに、研究に重点を置いた実のある体制を築き上げていきたいと思っています。それは、大学が社会から求められている基本が研究から教育ということだからでもあります。ここで私共教員が忘れてはならないことは、常に未来を見据えた眼差しを持つということだと思います。

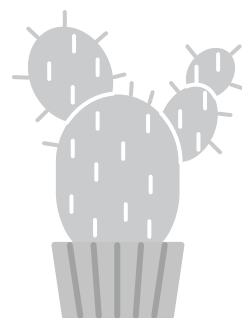
本学薬学部の特徴は、6年制（YP）よりも4年制（YM）の学生の方が少し多く存在することであり、しかも両学科の学生が4年次の同時期から研究室に配属され、共に研究をすることです。ここで交流を深め、お互いをよく知り、切磋琢磨して成長することによって、社会に出てから臨床の現場、あるいは創薬の現場で心から信頼して支え合うことのできる土台ができるということが最も大事なことだと思います。ここから日本の薬学界をリードするリーダーが輩出されることを願っています。

また、そういう教育を受けた人材がこれからの新しい薬剤師教育、あるいは創薬研究者教育を担うようになっていかないとはいけません。

現在、薬学を取り巻く環境は、新薬学制度の施行ばかりでなく大きく様変わりしています。そこでは特に、21世紀のゲノム医療等に対応できる研究心を育む「新しい薬剤師教育」、臨床現場のニーズを理解して最先端の創薬研究に携わる気概を促す「新しい薬学研究教育」、さらには大学院生に高い志を持たせる研究指導が求められています。こういった新しい薬学教育を行うという自覚を両学科の教員各自が持って、一致協力して教育・研究にあたらなければなりません。その仕組みを整えて、研究重視の薬学の伝統を守りながら、新しい未来への飛躍の足掛かりを築くことが私の職責だと思っています。

薬学教育は、薬学が人間を対象にした実学であるとは言え、ただ単に先端科学・技術や職業選択などに関わる実益的な学問を学ばせることではありません。また、薬学は、物質科学から生命科学、さらには宇宙環境まで守備範囲の広い学問であり、その基礎をしっかりと学び、それを土台に変化していく社会に対応できる創造性の豊かな人材を育成していくことが大切なことです。ここから、他者への寛大な心、共に生きるという視点を持つことができるようになり、薬学の最終命題ともいえる「人の命を救う」心構えができてくるのだと思います。

創立50年からさらに新たな50年の第一歩を踏み出した節目に際して、改めて熱き情熱をもって教育・研究に尽力したいと思っています。最後になりますが、薬学部の益々の発展のために、教職員をはじめとして同窓会の皆様方の一層のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



平成23年度 東京理科大学薬学部同窓会総会および講演会のご案内

本年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

■日 時：平成23年7月30日（土）

■場 所：インテリジェントロビー・ルコ（軽子坂MNビル）

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F 電話：03-3266-9311

同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します。

■次 第：14：00～15：00 同窓会総会

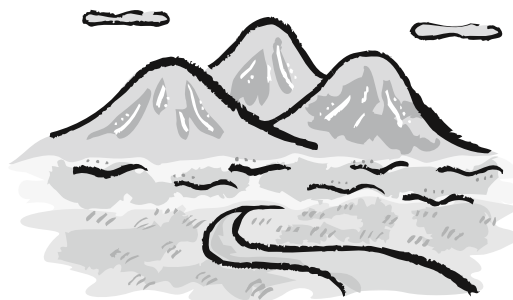
15：00～17：00 特別講演会

「鑑定を目的とした分析法の開発」 ～理大薬出身者として～
科学警察研究所 法科学第三部 化学第一研究室
主任研究官 岩田 祐子 先生（28期）

（財）日本薬剤師研修センター認定（1単位）

17：30～19：30 懇親会

■会 費：懇親会 5,000円



16回目を迎えた「実践社会薬学」の開催について

薬学部卒業生を講師に招いて開催される「実践社会薬学」が4月16日（土）より開講しました。例年では5月中旬から開始となっていたのですが、今年は1ヶ月早くより多くの学生が聴講できるように予定を組んでいます。

また、薬学6年制教育のスタートに合わせて内容も大きく変更しました。病院・薬局部門については臨床系の教育が充実したことに合わせて枠を縮小、逆に大学では教え難い企業部門の枠を増やし、内容もバージョンアップしています。是非一度皆さんも聴きにきて下さい。

平成23年度「実践社会薬学」講義予定表

	日時	時間	講師名	所属	期	タイトル	内 容
導入 行政 薬剤師会	4月16日	13:00～13:15	石井 甲一	薬学部同窓会会長			
		13:15～14:00	佐々木正大	環境省環境保健部 企画課保健業務室 室長補佐	32	厚生労働省に勤める薬剤師って何しているの？	薬学部を卒業して霞ヶ関に勤めるとどのような仕事をするのか、講師の実体験、テレビ、新聞などの身近な話題、皆さんが聞いたことのある話題からその内容をわかりやすく解説します。
		14:00～14:45	石田 真理	医薬品医療機器 総合機構新薬審査 第1部専門員	43	新薬の効き目や安全性のチェックはどうなっているのだろう。新薬の承認審査という仕事。	新薬は、販売される前に、行政側でその効き目や安全性についてチェックします。機構（PMDA）では実際どのようなことを行っているのか、その内容を最近の事例を挙げてわかりやすく解説します。
		休 憩					
		14:55～15:40	乙竹 久彰	東京都 福祉保健局 健康安全部 薬事監視課	37	東京都庁に勤める薬剤師って何しているの？	薬学部を卒業して東京都に勤めるとどのような仕事をするのか、日頃の業務の事例を紹介し、わかりやすく解説します。
		15:40～16:25	小林 寧	日本薬剤師会 医薬・保険課課長	26	日本薬剤師会って何するところ？	医療の現場で働く薬剤師を支援する薬剤師会の仕事などを紹介します。
薬局	4月23日	13:00～13:45	原 雅子	長楽堂薬局	22	薬剤師の一つの武器・・・漢方－専門薬局を運営しています－	東大病院門前で湯剤の処方せん応需している薬局の経営者に漢方の未来と経営者としての苦労・楽しさを聞いてみよう！
		13:45～14:30	山谷 一郎	カワチ薬品	39	調剤併設型ドラッグストアなう－セルフメディケーションをサポートします－	最近増えつつある調剤併設型ドラッグストア薬剤師の仕事と多くのアイテムをそろえたOTCを用いてのセルフメディケーション
		休 憩					
		14:40～15:25	百瀬 真弓	ポッポ堂薬局	12	調剤薬局業務っていろいろあるね？	服薬支援・薬薬連携・医療連携・認知症対応・お薬手帳などなど
		15:25～16:10	金澤 幸江	ポプリ薬局	12	薬剤師は地域連携の中で期待されているよ！	休日・夜間対応、災害時対応、地域ケアネット、介護認定審査会、学校薬剤師、在宅医療
病院	5月7日	13:00～13:30	安永 奈央	千葉西総合病院		「病院薬剤師の仕事って？」～千葉西総合病院の場合～	病院薬剤師に求められている役割は近年増えており、「病院薬剤師の仕事」と一口で言っても、その内容は多岐に渡ります。千葉西病院では薬剤師が毎日交替で様々な業務に関わっています。大学病院や一般病院とは少し違う、千葉西病院の場合を紹介し、病院薬剤師の役割について一緒に考えます。
		13:30～14:00	服部 聡	川崎市立 多摩病院		「新人病院薬剤師の1年間」	新人として1年間で振り返り、どのような教育を受け、業務に対する考え方の変化など新人薬剤師としての成長ぶりを話していただく。
		14:00～14:30	佐藤 和樹	済生会栗橋病院	41	「感染制御における薬剤師の役割とは」	病院薬剤師の方向性として専門性が求められており、多くの認定（専門）薬剤師が制度化されている現状を説明し、当院の感染制御チームの中で薬剤師に求められることを当院での事例をもとにお話できたらと思います。
		休 憩					
		14:40～15:10	折山 豊仁	東大附属病院	43	「大学病院勤務薬剤師の使命と社会人大学院へ行った理由」	大学病院に働く薬剤師の業務と使命、忙しい中で社会人大学院で勉強しようと思った理由を話していただく。
		15:10～15:40	小高 賢一	成育医療研究センター	13	「薬剤部長の業務と将来の就職のために」	病院の一部門である薬剤部の薬剤部長は薬の採用、事故の防止などの仕事を担っています。普段ではなかなか聞けない病院の裏話が飛び出します。

病院	5月7日	15:40～16:10	若手薬剤師	－	－	若手薬剤師を囲んで「薬剤師になったおもしろさ」Q&A集	若手の薬局薬剤師、病院薬剤師に集合してもらい、受講者のあらゆる質問に答え、非社会人の甘さを切る！
企業	5月14日	13:00～14:00	若松 正克	新日本科学	26	企業の部 はじめに	医薬品業界において、企業の存在意義とは何か。医薬品開発の流れから俯瞰してみましょう。
		14:00～14:55	若松 正克	新日本科学	26	(開発) 医薬品開発担当者というお仕事 －臨床試験に係る情報交換の主役－	新薬開発や既承認薬の適応拡大などに大きく携わる医薬品開発担当者（モニター）の業務内容について紹介します。
		休 憩					
		15:05～16:10	中村 宏	ディーエイチシー	23	(一般薬・サプリメント) 身近なクスリ・大衆薬とは	皆さんがTVCMでおなじみのOTC医薬品やサプリメントは、どのように開発され、市場にだされているのか、またOTCメーカーでの薬剤師の仕事は？などについて、医療用医薬品とは一味違ったOTC医薬品の姿を紹介します。
企業	5月21日	13:00～13:05	若松 正克	新日本科学	26	前週の復習、医薬品開発の流れ	
		13:05～14:00	田口 伸行	アステラス製薬	39	(営業) MR（医薬情報担当者）のここでもしか聞けない本音話	MR（医薬情報担当者）の一日・・・「嬉しかったこと」「辛かったこと」に加え、あまり大きな声で言えないような裏話を紹介します。
		休 憩					
		14:10～15:05	樽野 弘之	第一三共	22	(製薬会社・全般) 製薬会社は、他にもいろいろな仕事があるんだよ！	製薬会社には、研究、MR、開発、以外にもいろいろな仕事があります。第一三共を例に、どんな仕事があるのか、どのようなキャリア・ステップで、そのような仕事に就けるのか、教えちゃいます！
		15:05～16:10	座談会			座談会	まずは、先輩に直接聞いてみよう！
企業	5月28日	13:00～13:05	若松 正克	新日本科学	26	前週の復習、医薬品開発の流れ	
		13:05～14:00	中野 正吾	テルモ	23	(医療機器・薬事) 医療機器の臨床試験 －具体的な事例を中心に－	機器というのと堅苦しい響きがありますが、例えば、身近なところでは“体温計”、そして“心臓カテーテル”も医療機器なんです。医薬品あるいは医療機器の申請業務の話を変えて紹介します。
		休 憩					
		14:10～15:05	中西 国彦	株式会社ライフケア・ネットワーク	27	業界キャリアプラン（案）	キャリアプランって何？医薬品業界でどうやってキャリアを積むのがいい？一般的なデータを見てみましょう！
		15:05～16:10	座談会			座談会	まずは、先輩に直接聞いてみよう！
全体座談会	6月4日	13:00～14:30	SGD			薬剤師の役割について考えよう	
		休 憩					
		14:45～16:10	座談会				
情報交換会		16:30～18:00	参加可能講師陣			講師陣と受講者の懇談会	質問できなかったことの最終確認・討論



第27回 薬学講座 開催要項

期 日	平成23年10月15日（土）
時 間	10：30～17：00（10：00 受付開始）
定 員	240名
場 所	東京理科大学神楽坂校舎1号館17階（記念講堂）
参 加 費	2,000円（講演要旨代を含む） ※昼食代は含まれておりません。なお、学生食堂は営業しております。
主 催	東京理科大学薬学部
共 催	東京理科大学生涯学習センター 東京理科大学薬学部同窓会 財団法人日本薬剤師研修センター 文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン採択事業

● 開催の趣旨 ●

早いもので、平成18年に導入された薬学部6年制も来年には最初の卒業生が旅立ちます。それに伴って薬剤師に求められる業務も益々高度化・多様化していくものと思われます。このような背景のもと、今回の薬学講座は「文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン採択事業」との共催で開催することとしました。がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家は少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療においては、高度な知識・技術に習熟した各種専門家がチームとして機能することが何より重要です。「がんプロフェッショナル養成プラン」では、がん専門医師やがん専門薬剤師など、今後のがん医療を担うがんに特化した医療人材の養成推進を図るため、大学と医療施設との連携によるがん専門教育プログラムを支援しています。がんに対する取り組みは、医療現場のみならず基礎研究から応用開発まで広域に及んでおり、薬学においてもがん関連分野の重要性は年々増していると言ってよいでしょう。生涯学習の一環として行われる本講座でも、がんを中心とした切り口から、4つの講演を用意いたしました。それぞれの分野の第一線でご活躍の講師の先生方に講演をお願いしましたので、奮ってご参加ください。

● 講座のお申し込み方法について ●

原則、インターネットでのお申し込みのみとさせていただきます。インターネットがご使用になれない方は、東京理科大学生涯学習センターまでお問合せください。なお、受付締切は平成23年10月7日（金）とさせていただきます。また、定員になり次第締め切らせていただく場合もありますのでご了承ください。

インターネットによるお申し込み

- ① 東京理科大学生涯学習センターのホームページからお申し込みください。

<http://www.tus.ac.jp/manabi/>

受付結果の送付

- ① お申し込み受理後、受付結果兼受講証（払込用紙含む）を郵送でお送りいたします。
② 定員に達し、受講できない場合も受付結果はお知らせいたします。

受講料の振り込み

- ① 受付結果兼受講証が届いた日から1週間以内にお振り込みください。

講座受講

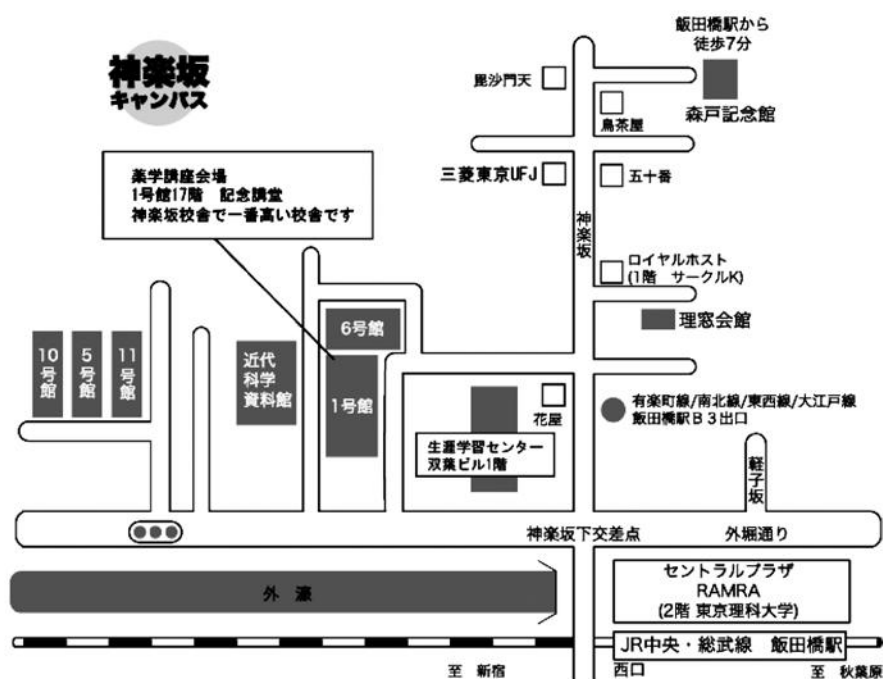
- ① 払込受領証を貼付した「受付結果兼受講証」をご持参の上、会場にお越しください。

第27回 薬学講座プログラム

- 10:30～10:35 開会の辞 実行委員長 早川 洋一
- 10:35～10:40 学部長挨拶 東京理科大学 薬学部長 田沼 靖一
- 10:40～11:50 (座長 浅田 善久)
「細胞接着分子を標的にした新しい治療薬の開発をめざして」
東京理科大学 薬学部 教授 深井 文雄
- ＜11:50～12:50 昼食・休憩＞
- 12:50～14:00 (座長 海保 房夫)
「がん患者さんとともに ～緩和薬物療法認定薬剤師として～」
東京女子医科大学病院 薬剤部 薬剤師 川井 朋子
- ＜14:00～14:15 休憩＞
- 14:15～15:25 (座長 樋上 賀一)
「がん分子標的薬の現状と展望」
がん研究会 がん化学療法センター 分子薬理部 部長 矢守 隆夫
- ＜15:25～15:40 休憩＞
- 15:40～16:50 (座長 小林 進)
「構造式で読み解くくすりの働き」
帝京大学 薬学部 教授 高橋 秀依
- 16:50 閉会の辞 実行委員長 早川 洋一

※今回の薬学講座は日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度の認定対象研修会であり、参加される場合は、3単位の修得となります。

ご希望の方は、当日会場にて受講シールをお受取りください。なお、途中入退場者にはお渡し出来ません。実質4時間30分を受講した方に受講シールをお渡しします。



お申し込み先



東京理科大学生涯学習センター

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

TEL: 03-3267-9462 FAX: 03-3267-2048

E-mail: manabi@admin.tus.ac.jp

URL: <http://www.tus.ac.jp/manabi/>

はじめての薬局実務実習を終えて

金澤 幸江（12期）



薬学部6年制になって必須科目となった薬局・病院それぞれ2.5ヶ月ずつ実習する実務実習が平成22年5月17日から始まりました。

日本薬剤師会は受け入れ薬局の施設要件として①保険薬局の指定を受けている薬局であること②一般用医薬品、医療機器を含む医療関連用品の販売を行っていること③在宅患者訪問薬剤管理指導届出薬局であること④麻薬小売業免許を有すること⑤薬剤師賠償責任保険に加入していること⑥認定実務実習指導薬剤師が勤務していることの6項目を示しています。

また実習生は事前に傷害保険と損害賠償保険に加入し、血液検査、生化学検査、尿検査、X線撮影などを含めた健康診断を受診することが、実務実習参加の必要条件とされています。

薬剤師の資格を持たない学生が薬剤師と同じ業務を体験するにあたり、共用試験に合格している、認定実務実習指導薬剤師が指導する、患者の同意を必ず得る、などを遵守することにより「麻薬調剤」と「疑義の確定」以外は実習可能とされています。

私の薬局（ポプリ薬局）でもI期に1名の実習生を受け入れました。電車で40分かけて通う学生さんでしたの

で駅から徒歩圏の当薬局に割り振られました。

ポプリ薬局は常勤薬剤師2名、非常勤薬剤師1名、事務2名が勤務する内科・心療内科・皮膚科の門前薬局です。近くの産婦人科その他広域病院からの処方箋も受けています。

学校薬剤師、介護認定審査委員、ふれあい調整会議委員、薬物乱用防止指導員、国民健康保険運営協議会委員、地域包括支援センター運営協議会委員など地域活動を熱心に展開し、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、個人在宅などの対応もしています。

ポプリ薬局では実務実習受け入れ準備として薬局を広くし、自動分包機、錠剤棚など増やし、調剤室に学生さんの座れる机も入れました。2.5ヶ月は長いので、皆がリラックスできる環境を作ろうと考えたからです。机は自習したり、作業をしたりと学生さんの居場所が確保され学生さんの心理状態にとっても有効のようでした。そして指導薬剤師だけが対応するのではなく薬局全体・会社全体で受け入れていこうと他店舗も含めて準備をしました。

薬局実習の一般目標は「薬局の社会的役割と責任を理



実習生が監査中

解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康管理、医療機関や地域との関わりについての基本的な知識、技能、態度を修得する」です。

参加型実習なので、当薬局の業務に到達目標をあてはめながら薬局で行っている業務全てを体験できるようスケジュールを組みました。医療事務の業務も体験しレセプトコンピューターの入力してもらいました。内科・心療内科、皮膚科の門前薬局ですが、麻薬処方箋もきて見学できました。糖尿の注射薬・吸入薬・点鼻薬・点眼薬・貼付薬などの使用説明、皮膚科の外用薬の混合調剤・重層療法、嚥下困難者の粉碎、施設対応の一包化なども体験しました。小児科調剤は他店舗でさらに症例を重ねました。近くの産婦人科からも処方箋がきました。漢方生薬と薬局製剤は協力薬局にお願いしました。きざみが処方箋で出される薬局で学生さんは分包機の分包紙が和紙で感激し、製剤した湯剤を服用してきたようです。本物に触れてきた感想は生き生きと輝いていました。

薬局薬剤師の地域活動も是非体験してもらいたいと考えていたので「在宅」「学校薬剤師」の他にもオプションとして「地域医療カンファレンス」(医師・看護師・社会福祉士・OT・PTなどによる多職種の事例検討会)「休日緊急診療所」(地域のチーム医療)「ダメ、ゼッタイ薬物乱用防止活動」(市民へ啓発)「4支部合同研修会」(体内時計と薬物療法)なども用意しました。

「在宅」では6回同行してもらい、独居のおばあちゃんと少しずつコミュニケーションがとれるようになっていく過程や、ヘルパーさんと同席して服薬のサポートをお願いしたり、在宅医療の実情・やりがいを体験しても

らいました。

長いと思っていた2.5ヶ月も過ぎてみれば短かった。学生さんも「あっという間に終わってしまった」と言っていました。

「薬局実習はそんなにやることはないだろう」とよくいわれますが、薬局業務に加えて地域医療を体験するためには2.5ヶ月は短いと感じています。

地域医療を支える薬剤師には「採用薬」はありません。どんな薬・状況にも対応できる経験と知識と判断力とコミュニケーション能力が求められます。患者さんの生活に寄り添う薬局薬剤師を感じて、いろいろな経験をしてから地域で地域に根ざした薬剤師として生きようと思ってもらえたら嬉しいなと思っています。

長期実務実習は私にとって、ポプリ薬局にとって業務の再点検・再検証をする良い機会になりました。

これからも「共に学び共に育つ」実務実習に携わっていきたいと考えています。

薬剤師に、地域に、明るい未来がひろがりますよう願っています。

このたびの東日本大震災により、被災された方々、犠牲になられた方々のご遺族に対し、心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。

薬剤師として少しでもお役に立ちたいと、福島から避難してこられた方たちの避難所で「お薬相談」などさせていただきました。

この苦難のとき、自分のできることをして、いっしょにがんばりたいと思います。



私の趣味、特技

山田 高照（5期）

マジックとの出会いは大学に入って何のクラブに入ろうかと迷っていたときに、友人に「一緒にマジック同好会に入らないか」と誘われたのがきっかけでした。ですからキャリアとしては薬剤師より4年長いことになります。同好会とはいっても、練習はかなりハードでプロと同様のレベルでしたから、本格的レッスンの繰り返しでした。例えば舞台公演での目線の使い方や、手や足の運び方など、動き方は厳しく練習させられました。そこまでするのですから先輩の中にはプロになろうとした人もいたほどです。当時は学生の身分ですからお金が無く、道具はほとんど自分たちで作り、大道具にもなると部員全員で作るという今思えば懐かしい思い出として心に残っています。

マジックをやっていて良かったと思うことの一つは、初対面でも必ず私のことを覚えていてもらえることです。ある新年会などでアグネスチャンさんが来賓で見えたとおり、彼女にマジックの助手をお願いして一緒に演技したこともあります。これも良かったと言えることかもしれません。また海外旅行での先々では互いの交流に役立ちますし、さらには空港の待合室で隣にいたイタリ

アの子供たちを相手に簡単なマジックを見せて喜ばせ、またある時はタイの船上で乗り合わせた人たちとマジックで和み、言葉は通じなくとも心は充分に通じ合う、これも一つの立派な国際親善・国際交流と思えることです。

これからはもっとマジックで手先を訓練して頭の運動、ボケ防止の為に長く続けて行きたいと思っています。



近況報告

ナノキャリア株式会社 代表取締役社長
iPS アカデミアジャパン株式会社 取締役
株式会社ウィズ・パートナーズ エクゼクティブ・アドバイザー

中富 一郎（11期）



私は38年前に東京理科大学薬学部を卒業しました。友人から連休明けに、本原稿を書くように頼まれましたが、忙しい近況を報告するより、大学卒業後の波乱の半生を報告した方が面白いと思い、会報関係者には申し訳ないですが（読者にも気の毒ですが）、そのような内容で筆をとることにしました。理科大を卒業後、語学勉強のための渡米直前に、たまたま健康診断書を取らなきやと、知人である胆石症の専門医を訪問すると、私の胆管にビリルビン結石が引っかかっていることを発見されて、「時限爆弾を抱えて渡米するのか？」と脅かされて、若くして胆石と胆嚢の摘出手術を受けました。今の内視鏡手術

とは違って、18針も縫う大手術でした。専門医曰く、「少し安全を見越して大きく切ったよ」と。当時、この専門医は胆石溶解剤の開発をしていて、グルコース溶液の点滴によって胆石の場所をレントゲン画像判断できる診断法を確立していた事が、その発見に繋がったというわけです。

1975年正月明け、東海岸のボストンへ渡ってからは、ルームメイト（一室に同居する）と呼ぶ男子高校生と一緒に住むことになり、これには泣かされました。毎週金曜日の夜はパーティ（ビール片手に各部屋回って歩く）があり、私はルームメイトのために大方部屋を明け渡さ

ないといけませんでした。理由は、彼らのガールフレンド持ち込みのためです。ある夜のことで、静かに寝ていると、隣にある彼のベットに彼女と一緒に寝ている仕草に目を覚まし、「ホテルへ行け」と喧嘩したこともありました。当時のボストンは治安が悪く、薄暗い通りには通り魔がいて、よく財布やパスポートを取られた事件を聞いたものです。一か月も経たないうちに、文化や習慣の違いをイヤと言うほど味わった自分が、半年の語学勉強を無事終了して、もう少しこの国に住んでみたいと思い悩みました。きっと、アメリカの「自由」を感じ取ったからだと思います。友人からタフト大学の教授に会って相談するように誘われて尋ねると、返事は「もっと勉強しないさい!」でした。つまり、大学院へ行って勉強しろということでした。それから、大学の修了証書や成績表などを英訳して、東京の公証役場で翻訳をオーサライズするなど、書類を作成してボストンに薬学部がある大学へ願書を送りました。当時はTOEFLのスコア基準を満たせば、簡単な試験と面談でわりと簡単に入学は可能でした。研究単位を多くとりたい気持ちがあったので、「ストレスと消化管運動の薬理作用」をテーマに興味を持ってくれたノースイースタン大学院大学の教授がいる薬化学・薬理学科へ入学できました。喜びもつかぬま、研究より5倍の単位を取らないといけない学科の授業はたいへんでした。大学院では、成績が80点以上でないとパスしないのです。年に4回試験があるものはまだ良かったが、毎週試験がある生理学には手こずりました。全ての授業をテープに録音して毎晩2時ごろまで聞き直して勉強に励んだあげく、急激に目を悪くしてひどい近視になってしまいました。それでもショックだったのは、好きな科目である薬理学と毒性学を65点で落としたことです。両科目とも共通するのは、50題以上のいやらしい問題形式テストで、いつも時間が足らずに失敗していました。修士課程1年後に受けた科目の平均スコアが3.0(80点)を超えないと、次年度に進めないシステムになっており、それは本当に大変でした。最近こそ米国でMBAを卒業している人は多いですが、当時は日本人学生も少なく、日本の大学時代とは全く違って、夜遅くまでカフェテリアや図書館で勉強している学生を多く見ました。入学して2年3か月後、ようやく卒業できたのです。入学は優しいが卒業は難問とする大学生活で、授業中にいくつか興味ある事柄がありました。それは、①とにかく学生はやらたら先生に質問すること、②テストの最中に算出するときには計算機の使用が許可されること、③試験問題が悪いと先生に文句を言ったり、間違った解答を正当化して先生に主張すること、などです。これもまた、文化や習慣の違いを多く経験しました。

修士課程を卒業後、すぐに父の紹介で久光製薬株式会社の研究所勤務として入社して、薬理研究、企画開発、ライセンスを担当しました。その間、国内で大学や子会



社へ出向して薬学博士の取得、ビジネス交渉やマネジメントの勉強ができました。入社後10年目に、米国のバイオベンチャー企業と交渉して導入のライセンス契約を締結しました。20人余りの会社ではありましたが、優秀な人材と有力な技術はあるけど、ビジネスなど交渉する人が社長以外にはおりませんでしたので、その事を社長に尋ねると、募集していると言い、「君はどうか?」とオファーがありました。結局、ビジネス担当副社長としてのマネジメント職位で受け入れるとのこと。先に契約締結した時の交渉術を買われてのことでした。私は、断腸の思いで久光製薬を退社し、39才にして我が人生を米国に投じることを決心しました。

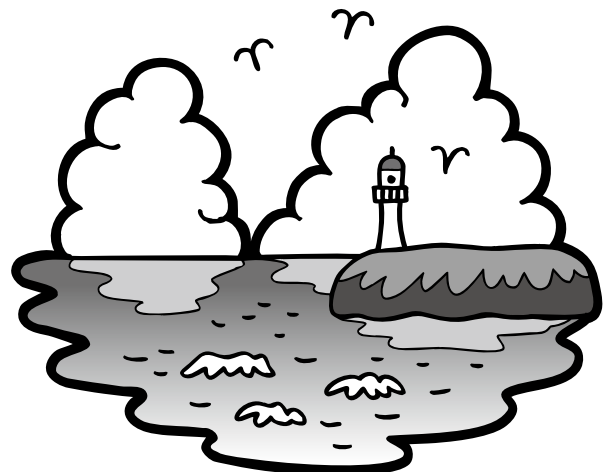
1991年1月15日、湾岸戦争開戦で世界の株式市場が低迷し始めた時、両親の心配をよそに、まずは単身でユタ州ソルトレイク市に向かい、セラテック社の管理職に就任しました。当時の米国は以前と違って「ベンチャー支援の環境基盤」が想像を絶する程に充実していました。日本のバブル時に三菱地所がロックフェラーセンタービルを購入して批判を浴びた後に、日本の企業論(例:トヨタのかんばん方式)がもてはやされている頃です。移住後、米国人に対して感じたことは、新しい仕事を求め新居地で暮らす、前向きに主張する彼らの生活態度はまさしく「ベンチャー魂」を有しており、日本人は絶対に追いつけないと思いました。その理由は、①男女問わず挑戦を好むこと、②闘争心があること、③費用対効果は金ではなく時間にある(すべてがスピード優先である)こと、④柔軟性があること、などです。時間をルーズに責任問題に発展する日本企業の体質とは決定的な違いがあります。1992年4月、セラテック社はナスダックに上場を果たし、臨床第2相と第3相試験用の開発品の製造のための資金を調達しました。上場後は、毎週のようにプレスリリースを行い、「企業の評価は株主が行うもの」、「事業の公表は株主に対する約束」と、株価を毎日のように気にせざるを得ませんでした。一旦公表したことは是が非でも実行しなければ、その担当責任者の評価並び

に会社の価値（株価）が落ちるために全員必死でした。実力社会においては結果こそが全てです。1998年春の株主総会は大荒れでした。株価下落は経営者責任です。その結末は、株価を一番上げてくれる企業へ「売却する」という決断でした。当初、反対したのは私一人という虚しい状況でしたが、事はスムーズに進み、翌年の株主総会は10分で終了し、ニューヨーク証券取引所に上場するワトソン製薬への売却が決定しました。その時の会社規模は既に300名になっていました。

1996年正月明け、米国で知り合った国内大学の友人二人から「僕達が考えた技術を世界に広めたい」と唐突な相談を受けました。私は一瞬、セラテックの創業に似ていると運命的なことを感じました。創業が二人の大学教授とビジネスマンだったからです。コア技術は、親水性―疎水性のブロック共重合体を用いた高分子ミセルというナノ粒子に薬物封入することのできる注射用のDDS製剤技術です。新しい工学的手法がどこまで薬学に役に立つのか、医薬品としてなり得るか、全てが分かりません

でした。しかし、日本発の技術、東京大学と東京女子医科大学発のバイオベンチャーとして創薬開発に向け、48才にて起業することを決心しました。会社をナノキャリアと命名し、先述の理由もあり人の採用を含めての本格始動は2000年1月からでした。丁度その頃、米国クリントン大統領による、ナノテクノロジー・イニシアティブの発表があり、その中で紹介された癌の診断と治療に引用されたナノ粒子が癌細胞へ向かう図を見て、まさしく我々が伝播していた理論が述べられており、自信を深めたのでした。現在は非常にユニークな全く新しい抗がん剤3品目を国内外で臨床試験を行っており、5品目が臨床試験を待つ研究中です。2008年3月には、東証マザーズに上場を果たして、起業を共にした大学の友人たちは、文字通り日本を代表する教授になりました。

私にとって米国で経験した人生は今でも精神の支えになっているようです。本稿の主題である近況報告とは程遠い内容になったことをお詫びし、もし次の機会があれば本来の近況報告をしたいと思います。



薬剤学・製剤学研究室を振り返って

芳賀 信



本年3月をもって東京理科大学を定年退職致しました。昭和56年10月に薬剤学講座の講師として採用されてから約30年間、職務を果たすことが出来ましたのも偏に、故加藤百合子教授、林 正弘教授をはじめ諸先生、職員、同窓生、学生の皆様のご指導、ご支援、ご協力の賜と心から感謝申し上げます。

この間、印象に残る出来事がいくつかありました。何度かあった移転問題、薬学部の改組、そして6年制への移行などです。新天地を求めて移転してから8年、漸く野田キャンパスに根付いて、これから撓わな果実の収穫が期待される樹木になりつつある感がします。平成8年に医療系と研究系研究室へと改組され、そして6年制と4年制の2学科から成る新生薬学部として出発してから

は、基礎系と医療系と名目上2系に別れてはいますが、研究と教育が両輪であり、卒業研究を重視していることは優れたシステムであると思います。私が関連する薬剤学分野については、物理薬剤学、薬物動態学、製剤学、医療薬剤学が元々大きな一つの柱であったことを常に意識する必要があると思っています。

足下から眼を少し遠方に転ざると、社会のあらゆる面でグローバルな視点が求められています。企業はもとより大学、そして薬学部に於いても各国の特徴を生かした国際化が進むように思われます。大学の講義がすべて英語で行われ、本学に多くの留学生が集う姿を夢見ながら、薬学部と東京理科大学の益々の発展をお祈り致します。

退職のご挨拶

西谷 潔

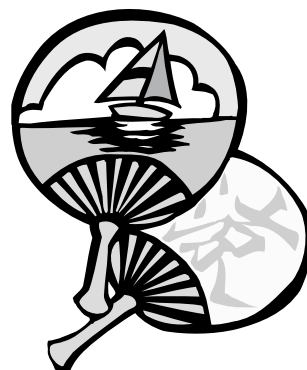


昭和46年3月薬学部を卒業し、48年10月から教員として皆様と共に過ごして来ましたが、定年まで2年を残し中退？することとなりました。先輩、同輩、後輩の同窓生の皆様に支えられながらの30有余年でした。皆様のお蔭と感謝しております。

さて、薬学部も制度が変わってから早5年、6年制の薬学科では平成23年度には最初の薬剤師国家試験が待ち構えています。また、4年制学科の生命創薬科学科では国家試験に頭を悩ますこと無く「薬を創る」ことに専念することが出来るようになりました。この両輪が「命を守る」事を目的として互いに助け合って進むことを強く希望します。

有機化学を専門としてきた者として最後に一言。創薬ではもちろんのことですが、薬剤師として働いているまた将来働く同窓の皆様。私が学生時代に学んだ薬理学とは違って近頃は作用メカニズムも分子レベルとなり、生体内で起こる化学反応としてとらえる時代になってきています、とすれば薬の構造や官能基の性質がいかに大切かは自明なことです。もう一度、有機化学や医薬品化学の本を開いて見て下さい。これからはあなたたちの時

代です、バトンタッチ！理科大での私の存在が少しでも皆様のお役にたっていたなら存在価値があったと言うことです。街で見かけたら是非声をかけて下さいね。長い間有り難うございました。



新任の挨拶

環境健康学研究室 鍛冶 利幸



平成22年4月より小野寺祐夫教授の後任として環境薬学を担当することになりました。よろしくお願いします。

私が生まれ育った「薬の富山」では、高度成長期には成長の活気に溢れていました。一方で、公害もひどく、イタイタイ病をはじめとする重篤な健康被害が問題になっていました。そうした状況の中、富山大学に薬学部としては初めての環境系講座が設置され、当時受験生であった私はそれに憧れて富山大学に入学し環境薬学を志しました。現在もそれを継続していることは、私のささやかな誇りであります。

私は重金属の毒性学を専門としています。薬学は化学物質と生体のインターフェイスを反応の場とする科学ですが、そこに環境と人の関係が投影されることによって

環境薬学が成立しています。環境薬学の最終目的は、環境要因に起因する疾病を予防し健康を増進することです。そこで専門分野としては環境健康学を名乗っています。最近では、無機金属と有機化合物の両方の特性を有するハイブリッド分子に着目し、そのバイオロギーをバイオオルガノメタリクスと名付けて研究を開始しました。

東京理科大学薬学部上記の研究を行う拠点を与えられたことに心から感謝しています。特に、優秀な学生たちが新しい科学に挑戦する姿には日々感動しています。研究室の整備はまだですが、素晴らしい学生たちに依拠して立派な研究成果を発信していきたいと決意を新たにしています。

新任の挨拶

実務薬学研究室 根岸 健一



平成22年10月より東京理科大学薬学部薬学科准教授として教員に加えていただくことになりました。

既にご承知のことと思いますが、現在の6年制薬学科における薬剤師教育は過渡期にあり、全国の薬系大学でモデル・コアカリキュラムをもとにした試行錯誤の教育が行われている最中です。一方、本学薬学科では、研究の素養を持つ質の高い薬剤師の養成を目指し、さらなる教育研究の充実を求めている状況であろうと考えております。

幸いなことに、このモデル・コアカリキュラムには、

かつて私自身が臨床系修士課程で学んだ教育の、多くの要素が取り入れられておりますので、その点でも微力ながら貢献できるのではないかと考えております。

また、伝統的に研究を重視する本学において、従来の基礎的な研究に加えて、私がこれまで行ってきた、現場の中から研究の種を見つけ、研究成果を現場に反映できるような研究を組み合わせることにより、今、直面している現実の問題に対する解決策を捻り出す能力を持った薬剤師を育てていきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い致します。



「東京理科大学薬学部創立50周年記念

第一期生同期会」開催の報告

「薬学部創立50周年記念式典」が開催された後に同じ京王プラザホテルで第一期生の同期会が開かれました。昭和35年に薬学部に入學した私達にとっては、感慨深かったこともあって、今までに無く60名の出席者がありました。加えて恩師の先生方4名（兼松顕、近藤保、糸川秀治、榊原仁作先生）が遠方から出席して下さい、更

に盛大な会合になりました。

兼松先生に乾杯のご挨拶を頂いた後、みんな固定の席を離れて思い思いに昔の友人達との懇談になりました。予定の2時間半は、瞬く間に過ぎ去り最後に集合写真を撮ってから、次回は2年後を予定し散会しました。

（記 黒崎）



京王プラザホテル47階「あおぞらの間」

3期同期会報告

平成22年5月16日、卒後44年になる薬学部3期卒業生の同期会を開催しました。

当日は薬学部創立50周年記念式典が開催され、3期同期会は午後6時から市ヶ谷のアルカディアで開催しました。

卒業後44年、4年ぶり5回目の同期会でしたが49名が出席、この4年間で2名が他界され、既に他界された方

を含め13名の物故者に黙祷した後懇親会に移りました。

学生時代の写真を卒業後流行ったフォークソングをBGMにスライドショーを上映し、入学時のクラス別集合写真、1年生夏の「霧が峰課外実習」、卒研の仲間との旅行写真、等々懐かしいスライドを見ながら、楽しかった学生生活、卒業後も暫く夢にまで出た一夜漬けの試験



薬学部3期同期会（平成22年5月16日 市ヶ谷アルカディア）

勉強の苦しみ、一喜一憂した進級試験、好きだったあの
人、学生時代の顔に戻り会話を弾ませました。

2年後の2012年は薬学部入学50周年。沖縄在住の同期
生からの提案もあり、入学時同期だった人を含め沖縄で

開催を予定しています。

「邂逅の喜びいつまでも」・・・覚えていますか？再
会を期待して。

文責：薬学部3期同期会世話人 星野 孝道

11期同期会報告

薬学部創立50周年記念式典（平成22年5月16日 京王
プラザホテル）の同日直後に、11期生の同期会を開催し
ました。

ホテルから近い新宿NSビル内にあるイギリス風パブ
「THE ROSE & CROWN」に歩いて移動。式典会場で久
し振りにお会いした先輩・後輩の方々に声をかけたところ、
写真にも写っているように、10期、12期も参加して
の大きな同期会になりました。

私たちが薬学部で過ごした昭和44（1969）年から昭和
50（1975）年は、大阪で「万国博覧会」が開かれ、「今
井通子・アイガー北壁直登」「田部井淳子・エベレスト
登頂」「沢松和子・アン清村がウィンブルドンで優勝」「札
幌冬季オリンピック」「沖縄海洋博覧会」など、右肩上
がりの経済成長に後押しされて、日本の繁栄と世界への
仲間入りが加速していた時代でした。

フォークソングが流行して、男子学生も髪を伸ばし、



ロングヘア（今ならロンゲ？）にGパン（デニムのブルージーンズ）、ベルボトムなんという人もいました。憧れのマドンナは、ミニスカートかパンタロン。

お互いに顔を合わせた瞬間に40年近い時間を飛び越え、旧友との懐かしくて楽しいひとときでした。遠く秋田や九州、金沢など、この会のために来て下さった方々もいます。大学を卒業して別々の場所で、別々の時間を

過ごし、年輪と風格を感じさせてくれる「我が良き友よ」。お互い元気をたくさんもらって、3時間は、あっという間に過ぎました。

「還暦」前後の今から次に会う時まで、人生の“セカンド・ステージ”を大切に楽しく過ごして、新しい“話しの種”を作りたいものです。次回「また逢う日まで」楽しみに。
(11期 小暮 渉)



15期同期会報告

15期（昭和53年卒業）同期会を2010年6月26日（土）、神楽坂の「ルコ」にて開催いたしました。15期卒業生138中116名に連絡が取れ、当日は43名が参加しました。

同期会は、卒業後32年の歳月を経て初めての開催となりましたが、周到な事前準備のもとで計画されました。きっかけは、2009年7月25日に開催された恒例の薬学部同窓会で15期が幹事を務めた際に、参集した15期生が残ってプレ同期会を開きました。参集した25名の誰もが15期同期会の発足を宿望し、再会を誓いました。その後、幹事会が結成されて、まずは同窓会事務局より提供いただいた名簿に基づき仲間の安否を確認する作業に奔走しました。残念ながら、最終的に22名が未だに消息が分かりませんでした。折しも15期同窓会は、薬学部創立50周

年事業とほぼ時期が重なりましたが、その翌月の開催にも拘わらずこれだけ多数の参加者を得たことには改めて同期生の結束と母校への熱い想いが感じられました。

ルコでの一次会は全員が近況を報告しあいました。迎えた高齢にもめげず、それぞれが成熟した域に達し、各方面で益々意気軒昂に活躍していました。また、子供の成長に話が進むにつれて、世代の交代を感じざるを得ませんでした。ほとんどが二次会に参加し、果てには在学中によく通いました神楽坂のおでん屋「せつ」にも大人数がなだれ込み、三次会まで大変な盛上がりとなりました。今後の定期的な開催を約し、終宴となったのは、午前様近くでした。

また、参加費の一部を利用して15期のホームページを



記念として立ち上げました。

<http://www.sehma.co.jp/yakugaku15/100626/>

写真も掲載し、会の様子がくまなく見て取れますので是非お立ち寄り下さい。出席が叶わず近況をお知らせいただいた40名以上の方々にはこの場を借りてご挨拶申し上げます。次回からは幹事会に女性も加わっていただき、より充実した同期会にしていきたいと思っております。

最後に、名簿、シール、協賛金とご支援をいただきま

した薬学部同窓会に感謝申し上げます。

(今回の幹事) 谷口 隆雄
高橋 正史
日向章太郎
和田 浩志
菅原 伸治 (報告)

7 期同期会報告－卒後40周年

平成22年11月14日（日曜日）、飯田橋・軽子坂のインテリジェントロビー・ルコで第三回7期同期会を開きました。昨年は理科大学を卒業した1970年（昭和45年）から数えて丁度40年目の記念の年、前回同期会から10年振りでした。参加者は全部で46名、うち女性35名、男性11名と相変わらず女性の多い同期会でした。

私達7期生は、昭和22年生まれを中核とする団塊の世代です。戦後のベビーブームの先頭を行く集団の中で育ち、小学校のプレハブ校舎での複式授業や、高校、大学受験の大競争時代を経験した世代でもあります。卒業した昭和45年は、日本の経済成長が絶頂期にあり、就職は極めて楽なもので、豊かな社会の実現を信じて疑いませ

んでした。

数年前に60歳の壁を越えたところで、皆さんの生活も大きく変わりました。同期会のもっぱらの話題は自身の健康と親の介護、定年後の生き方でしたが、事前にもらった近況報告を見る限りは、まだまだ現役で会社や学校の仕事を続けているヒト、薬局や病院で薬剤師を続けているヒトなども沢山いるのに驚かされました。

今後も知恵を出し合い、心の充足を求めて、同期会の親睦を深めていきたいと思いますが、自分たちの年齢を考慮して3年ごとの同期会開催にしようと約束して散会しました。

7期生幹事 寺山 博行



薬化学－生物有機化学研究室合同同門会報告

理科大薬学部が2003年4月に野田に移転して早くも8年が経ちました。野田移転とともに講座制から完全な研究室制度に移行したことから「薬化学研究室」の名前が無くなり、研究室の新しい後輩が生まれなくなったことに私たち薬化学卒業生は寂しい思いをしておりました。そんな折、星野 修先生と、星野先生の後任にあたる生物有機化学研究室教授の青木 伸先生のご発案で、昨年(2010年)10月23日に、新旧2つの研究室の合同同門会(薬化学－生物有機化学研究室ジョイントフォーラム)を神楽坂校舎にて開催致しました。今回の合同同門会は、旧交を温めることに加え、薬化学研究室内の卒業生にとっては新しい理科大薬学部、新しい後輩との繋がりを、また、生物有機化学研究室内の卒業生、現役生にとっては新しい先輩との繋がりを作ることが目的でありました。

2003年の野田移転の際、薬化学研究室は「さよなら神楽坂・薬化学講演会」を開催し、卒業生と旧職員の先生による講演会と懇親会を開いておりますが、今回も、薬化学研究室内の卒業生8名による講演と生物有機化学研究室内の卒業生、現役生、旧職員、ポストクの計5名による講演、そして、青木先生による新しい理科大薬学部と生物有機化学研究室内の紹介が行われました。講演は幅広い

年齢層の演者により、薬の世界はもとより、それ以外の分野においても、これまで活躍されてきた、あるいは、現在第一線で活躍されている体験を中心とした講演から、研究がまさに進行中である最先端のサイエンスの講演まで、幅広い内容の、充実したものとなりました。古い卒業生は後輩達の力を感じるとともに、学生時代に有機化学を必死で勉強したことを思い出し、新しい卒業生は先輩方のパワーとこれから進んでいく人生の指針を感じ取ることができたのではないかと考えています。

講演会後の懇親会も恩師や旧友との再会や新しい出会いがあり、第1回の合同同門会を成功裏に終えることができました。今後も2つの研究室が一つの流れとして繋がっていくことを願っています。

最後に、全ての参加者の皆様、快く講演や座長を引き受けていただいた皆様、石崎先生を初めとする薬化学研究室内の世話人の皆様、実務的な準備のほとんどをしていただいた、青木先生を初めとする生物有機化学研究室内の皆様、そしてお忙しい中をご出席いただいた榎原先生、星野先生、原先生に厚く御礼申し上げます。

20期 小松 俊哉



「久保寺研同窓会」の報告

平成22年11月28日（日）午後アルカディア市ヶ谷で「久保寺研同窓会」を開催しました。本来なら久保寺先生の三回忌に当たる今年4月に開催するところですが、「薬学部創立50周年記念式典」が5月15日に開催されましたので、半年後のこの日になりました。

当日の出席者は22名と少なめでしたが、遠方（愛媛県・奈良県・長野県）からの出席者もあり、返って親しみある雰囲気が感じられる会合となりました。又、時間的な

余裕から自己紹介では、各自持参した懐かしい大学時代の写真をOHPでスクリーンに映写しながら久保寺先生との思い出が語られ、更に卒業後の経歴まで報告されて予定時間を大きく超過するほどでした。

今回は4回生の中島勝明氏と柴田満政氏が幹事に決まり、2年後の再会を約束して散会しました。

（記 黒崎）



平成22年度地区交流会（長野）報告

第43回日本薬剤師会学術大会が長野で開催されたのにあわせて、地区交流会を10月10日（日）19：30から長野駅前ウェストプラザ長野9階 宴席「油や」で開催致しました。既にお申込みの皆様に加え、学術大会から合流された方を合わせ、23名がご参加くださいました。

原先生、石坂先生もお見えになり、会席料理を味わいながらお酒も程よくまわり、にぎやかなお座敷となりました。学術大会は理科大からも多くの先生、同窓生の参加があります。今後は先生にもお声をかけて、同窓生との懐かしい出会いの場となりますよう努力したいと思います。

平成23年度地区交流会中止のお知らせ

今年度の日本薬剤師会学術大会は仙台開催が予定されていましたが、東日本大震災により中止となりました。学術大会の中止に伴い、地区交流会も中止となりました。今回の地震で被災された地域の日も早い復興を願っております。そしていつか仙台での地区交流会を持ちましょう。

平成22年度同窓会通常総会について

平成22年8月7日（土）午後、理窓会館 第3会議室において、平成22年度通常総会が開催されました。平成22年5月に50周年記念式典が開催されましたので、講演会と懇親会はなく、総会のみとなりました。金澤幸江氏（12期）より開会が宣言され、最初に石井甲一会長の挨拶、次いで犬飼陽子氏（12期）が議長に指名され、菅原伸治氏（15期）、日向章太郎氏（15期）両氏の議事録署名人指名の後、議題に従い議事が進行されました。

主な議案は次の通りで、審議後採決を諮り異議なしを認め、いずれの議案も原案通り承認されました。金澤氏より閉会が宣言され、平成22年度総会を終えました。

第一号議案 平成21年度事業報告

1. 同窓会会報第21号発行 平成21年6月10日
2. 平成21年度実践社会薬学講座
平成21年5月23日～7月4日（毎週土曜日7日間）
3. 同窓会通常総会
平成21年7月25日
インテリジェントロビー・ルコ

特別講演会

「がん対策基本法——患者が果たした役割」

～今後の課題と薬剤師への期待～

講演者：読売新聞社東京本社

編集局社会保障部

本田 麻由美 先生

懇親会

4. 同窓会室の設置（16号館1階） 平成21年10月
5. 地区交流会開催 平成21年10月11日
第42回日本薬剤師会学術大会（滋賀）で交流会開催
6. 平成21年度薬学講座を共催 平成21年10月17日
7. 新会員勧誘 郵送にて資料を送付 平成22年1月17日
平成22年3月卒業者（47期）16名、大学院修了者3名が会費納入
8. 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈
卒業生全員に卒業記念品（スパーテル）を贈呈
平成22年3月19日
9. 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈
5期、6期、13期
10. 全国薬科大学・薬学部同窓会協議会への参加は
見送り
11. 2010年度版名簿作成準備
12. 薬学部創立50周年記念式典の準備
京王プラザホテルコンコードボールルームにて開催
（平成22年5月16日）
13. ホームページのメンテナンス
14. 幹事会4回開催
平成21年4月4日、7月25日、10月17日
平成22年1月16日

第二号議案 平成21年度決算報告及び監査報告

平成21年度会計報告				
東京理科大学薬学部同窓会				
平成21年4月1日～平成22年3月31日				
収入の内訳	金額	支出の内訳	金額	摘要
前期末金	1,675,000	人件費	800,100	アルバイト代(名簿編分を含む)
名簿購入代	0	通信費(KDDI)	45,980	KDDI
名簿貸料金など	0	経費内訳印刷送達費	1,024,088	ふなかわ印刷送達(菅原印刷)
預金利息	12,523	郵便代(宅配代も含む)	70,600	郵便代・宅配代
経費金参加費	275,000	経費金謝金	50,000	謝金部札
地区交流会懇親会参加費	115,000	経費金	87,845	生活費、研修シール代等
講演会参加費	0	経費金	284,300	総会懇親会
寄付金	20,000	実践社会薬学講座謝礼	86,000	図書券2000円×33名
資産より繰入	984,843	実践社会薬学情報交換会費	72,000	
		卒業記念品代	100,000	
		卒業記念品代	132,300	記念スパーテル210本
		交際費	89,848	総会・研修費お中元・お歳暮等
		同期会協賛金	90,000	5・6・13期
		地区交流会懇親会費	150,000	
		全国薬科大学・薬学部同窓会協議会費	0	
		文具・事務経費	175,526	
		ホームページ維持費	0	
		雑費	74,000	函金(通信費、名簿代など)・振込金
		資産への繰入	0	
合計	3,292,366	合計	3,292,366	

資産内訳	
郵便局貯蓄口座	612,000
定期預金	4,521,664
普通預金	13,400,942
普通預金(名簿用)	1,137,174
現金	372,752
計	20,034,432

平成22年7月27日
会計 関宮 智子

監査報告
会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。
平成22年7月22日
会計監査 高井 幸恵
草本 紀子



第三号議案 平成22年度事業計画案

- 1. 薬学部創立50周年記念式典への協力 平成22年 5月16日
京王プラザホテル コンコルドボールルームにて
記念誌販売
寄付金 100万円
- 2. 同窓会会報第22号発行 平成22年 6月25日
- 3. 平成22年度実践社会薬学講座
平成22年 5月22日～7月10日（毎週土曜日 7日間）
- 4. 同窓会通常総会開催 平成22年 8月 7日
- 5. 平成22年度薬学講座を共催 平成22年10月16日
- 6. 地区交流会開催 平成22年10月10日
第43回日本薬剤師会学術大会（長野）で交流会開催
- 7. 新会員勧誘 郵送にて資料を送付 平成23年 1月
- 8. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈 平成23年 3月
卒業生全員に卒業記念品を贈呈
- 9. 同期会開催に際し、祝金 3万円を贈呈
- 10. 2010年度版名簿作成、販売
- 11. 薬科大学・薬学部同窓会協議会への出席 期日未定
- 12. ホームページのメンテナンス
- 13. 幹事会の開催（平成22年 4月 3日、8月 7日、10月
平成23年 1月を予定）
- 14. 役員会（平成22年 8月 4日）

第四号議案 平成22年度予算案

平成22年度収支予算			
東京理科大学薬学部同窓会			
平成22年4月1日～平成23年3月31日			
収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,000,000	人件費	800,000
懇親会参加費	0	通信費(KDDI)	42,000
地区交流会懇親会参加費	200,000	諸案内状印刷発送費(祝賀会案内ハガキ再送分も含む)	1,430,000
名簿購入代	1,200,000	郵便代(宅配代も含む)	80,000
寄付金	120,000	講演会謝金	0
普通預金より繰入	2,231,000	総会経費	10,000
預金利息	12,000	懇親会費	0
		実践社会薬学講師謝礼	70,000
		実践社会薬学情報交換会費	80,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代	150,000
		交際費	35,000
		同期会協賛金(5期分)	150,000
		地区交流会懇親会費	200,000
		全国薬科大学薬学部同窓会協議会費	50,000
		文具・事務経費	180,000
		ホームページ維持費	36,000
		名簿作成費	1,300,000
		薬学部50周年祝金	1,000,000
		予備費	50,000
合計	5,763,000	合計	5,763,000



氏名・住所・異動等変更届

東京理科大学薬学部同窓会宛

記入 年 月 日

下記の変更をお知らせします。

氏名	フリガナ			旧姓	フリガナ		
	漢字	姓	名		漢字	姓	名
卒業・修了	薬学部（薬学科・製薬学科） 期 年卒 (卒・研究室)			大学院（修士・博士） 年修了 (院・研究室)			
住所	旧住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	現住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL.		FAX.				
Eメールアドレス @							
勤務先	フリガナ 名称						
	所在地	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL.		FAX.				
Eメールアドレス @							
その他 連絡事項							

切り取り線

個人情報は 東京理科大学薬学部同窓会の規定に従い管理致します。

【事務所・連絡先】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内

FAX : 04-7121-4531

E-mail : jimuridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

薬学部同窓会は同窓生の会費で運営されています

薬学部同窓会の皆様、日頃より同窓会にご協力戴きありがとうございます。

また本年も昨年に引き続き会費納入本当にありがとうございました。同会幹事一同心からお礼申し上げます。そして本年度から新たな同窓生となりました平成23年3月ご卒業、ご修了の皆様、ならびにご父兄の皆様からも本同窓会運営に賛同を得ることができましたことを本心にうれしく思っております。

東京理科大学薬学部同窓会は同窓生から徴収された会費により運営されております。

今後とも、ご支援、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

平成23年度会費納入のお願い

平成22年度に引き続き、平成23年度会費納入をお願いいたします。

各会員の会費納入状況は、ふなかわら送付時の宛名の下部に記載してありますのでご確認ください。なお、会

費納入の際には、同封の郵便局振り替え用紙をご利用ください。会費は年会費2,000円(何年分でも納入できます)、終身会員50,000円です。ご寄付も受け付けておりますのでよろしくお願い申し上げます。

(終身・∞)

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：終身会員の方は、納入年度にかかわらず、

ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

(平成××年度・済)

平成××年度まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

(平成23年度・お願い)

H23年度会費 未納の会員の方：よろしくお願い致します。

2010年度版薬学部同窓会会員名簿のお知らせ

現在2010年度版薬学部同窓会会員名簿（CD-ROM 版）を発売しております。

名簿 終身会員・年会費納入者 頒価 3,000円

年会費未納者 頒価 5,000円

購入ご希望の方は、会費納入と同様に同封の郵便局振り替え用紙をご利用ください。また、年会費未納の方で、年会費納入と名簿購入を同時に希望していただける場合は、名簿は3000円になります。よろしくお願い致します。

平成22年度 会費納入額詳細（平成23年3月31日現在）

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	人 数	
平成22年度卒業・修了者	38,000	3	628,000	21	0	0	666,000
既 卒 者	330,000	54	800,000	17	29,000	4	1,159,000
合 計	368,000	57	1,428,000	38	29,000	4	1,825,000

薬学部同窓会会員数（平成23年度3月31日現在）

	会員登録数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	8,497名	1,709名	927名
大学院修了生	203名	16名	5名
合 計	8,700名	1,725名	932名

48期 平成23年3月卒業生は生命創薬科学科 124名



同窓会室（16号館 1 階 平成21年10月～）

東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館 1 F

FAX：04-7121-4531

E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

行事などに関するご案内など掲載しておりますので是非、アクセスしてみてください。

編集後記

今回の東日本大震災が発生した数日後、大学同期入学で同じ部活の親しい友人が亡くなってしまいました。ここ数年来、体の調子が良くなく、時々入院しておりましたが、元気になるものとばかり思い、元気になったら山に行こうと声をかけておりました。震源地に近い関東地方に住んでおりましたので、地震及び余震によるストレスが死を早めたかもしれません。

親類縁者の死亡は大体が歳の順で、死は60歳を過ぎると身近になり、それなりに心の準備をしてきたつもりでしたが、いざ同年の仲間の死を迎えたとき、まだまだ準備不足と思い知らされました。49日の法要で、彼の墓前に「これから少しずつ身辺整理しながら一日一日を大切に生きて、そのうちにそちらに行くから」と言ってきました。

平成23年度 幹事一覧

小原	侃	(1)
黒崎	浩己	(1)
山口	堅志郎	(1)
生田	安喜良	(2)
鈴木	政雄	(3)
中村	洋司	(3)
池田	幸雄	(4)
宇留野	強	(4)
柏木	敬子	(4)
山川	洋志	(5)
山田	高照	(5)
湯田	康勝	(5)
植木	清一郎	(6)
藤井	幸子	(6)
石井	賢二	(7)
寺山	博行	(7)
松岡	隆	(8)
奥村	成太	(8)
武尾	勝司	(9)
中島	敏夫	(10)
原	しげ子	(10)
石井	啓子	(10)
安達	順一	(11)
石井	甲一	(11)
小暮	渉	(11)
岡宮	智子	(11)
富秋	英志	(11)
向井	呈一	(11)
飯島	康典	(12)
金澤	幸江	(12)
犬飼	陽子	(12)
田端	敬一	(12)
伊藤	充朗	(13)
小高	賢一	(13)
濱野	朋子	(13)
波田野佐	和子	(13)
伊藤	昭子	(13)
石井	文由	(14)
岩崎	修	(14)
田村	哲彦	(14)
林	譲	(14)
畑中	典子	(14)
菅原	伸治	(15)
日向	章太郎	(15)
和田	浩志	(15)
遠藤	健治	(16)
関口	真紀子	(16)
田畑	新	(16)
武田	直子	(16)
今	和枝	(16)
渡部	敏行	(16)
青山	隆夫	(17)
渡辺	宏二	(18)
小嶋	知夫	(19)
小松	俊哉	(20)
飯野	直子	(21)
吉田	雅人	(21)
安藤	秀一	(22)
磯部	総一郎	(22)
小川	政彦	(22)
柏田	みどり	(22)
永井	健二	(22)
高井	幸恵	(22)
和田	和裕	(22)
北嶋	晶子	(23)
上村	直樹	(23)
伊集院	一成	(25)
小林	寧	(26)
関根	靖之	(26)
若松	正克	(26)
前田	真	(27)
大瀧	充	(29)
神谷	貞浩	(29)
内村	兼一	(30)
山本	香織	(30)
水	八寿裕	(30)
高橋	未明	(31)
小田	瑞穂	(31)
佐々木	正大	(32)
小島	昌徳	(34)
野村	香織	(34)
松井	洋子	(34)
金井	亮介	(37)
浅井	将	(37)
遠藤	咲智子	(39)
保	大久保	(40)
澤井	有香	(40)
高橋	美里	(40)
今関	智至	(40)
杉野	友佳	(43)
永井	由香里	(43)
森脇	弓子	(43)
松本	恵子	(43)
石坂	洋典	(43)
	隆史	(大学院)